

発行所
新潟県看護連盟
新潟市中央区川岸町2-11
新潟県看護研修センター内
TEL 025-266-2360
FAX 025-266-2322
E-mail:yuki@niigata-kangorenmei.jp
編集責任者 二階堂 一枝
印刷所 南フジプリント
TEL 025(244)0638
FAX 025(245)6587

躍動する新潟県看護連盟

ゆきつばき

第46号



政治を身近かに感じた国会見学 25.10.17



新潟県看護連盟会長
二階堂 一枝

目標に向けて力強くスタートしました

今年の冬は例年に比べ降雪は少ないものの、寒暖の差が激しく春の訪れが待ち遠しいこの頃です。

会員の皆様には日頃連盟活動にご協力いただき誠にありがとうございます。皆様と力を結集して臨んだ昨年の選挙、3人になった組織代表の活躍は頼もしく誇らしく、更なる連盟の強化を願わずにはいられません。

さて、今年の県連盟活動は新年明けて間もない、1月11日に力強くスタートいたしました。看護協会との合同研修会他研修プログラムに大勢の方々が参加され、石田参議院議員の講義や活動報告を熱く聴きました。ナースマン研修では男性看護師が期待される存在であることを確認し、意欲的に働き続けていく気持が大いに高まりました。1日を通して議員のホットな情報に触れ、参加者は国会に送った意義を改めて認識し、連盟活動の充実拡大を目指そうとの意気込みを話合うなど、次の活動につながるありがたい機会となりました。国政報告会では、来賓として看護問題対策議員連盟の6人の国会議員の参加をいただき、心強く思うとともに、日頃の連携の大切さを強く感じました。

日本看護連盟は会員比率を協会員比50%を目標に掲げています。新潟県はまず、30%を目指す方針を立て、支部において施設ごとに数値目標を定めて動き始めています。「選挙はもちろん、連盟活動は数がものをいう!!」選挙直後にもみんなで実感したことです。今年は県連盟と支部がいっそう力を合わせて、必らず目標を達成いたしましょう。

看護連盟は看護協会の目的達成のために作られた組織です。県看護協会との緊密な連携のもとに活動を進めてまいります。



国会議員だより



衆議院議員

あべ 俊子

新潟県看護連盟の皆様、いつも温かいお力添えを賜り心より感謝申し上げます。

現在、第186回通常国会が開会しています。会期前から法案の説明や整理、与野党間の話し合いに取り組むなど国会運営の準備を進めつつ、年末年始の1ヶ月以上にわたる地元密着の活動から国会での政策中心の活動に自分自身を切り替えていきます。今国会では、必要な法案を通し、また復興を推し進めていくとともに、次々年度に向けての予算獲得のための政策づくりもしていきます。それらの予算には、10年、20年、それに続く100年後の日本のことをも考えた思いを込めながら、次世代に送り継ぐ政策をつくりあげていきます。同時に、看護職の皆様お一人お一人が働きやすく、やりがいをもって看護できることを心から願い、皆様のお声をお聞かせいただきながら、その実現に向けても引き続き精一杯取り組んでまいります。新潟県看護連盟の皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



参議院議員

たかがい 恵美子

新潟県看護連盟の皆様へ、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

第二次安倍政権の誕生から12ヶ月間、政策の重点は財政再建と経済活性化、そして新たな成長戦略の発信へ注がれて参りました。いわば我が国が将来、真に健やかな成熟社会へ飛躍していくための基盤整備が行われたわけです。これからは、国民のいのちと暮らしの安全・安心を安定的に保証するための社会保障制度体系全般にかかる諸々の大改革を進める段階に入ります。

社会保障を実現する最大規模のプロ集団として、いよいよ看護職が現場の声を政策へ届ける時がやって参ります。私こと、高階恵美子も看護職の一人として、これまで着々と進めてきた地道な努力の積み重ねを、今度は国会の場で政策としてひとつでも多く目に見える形で実現させていくべく、微力を投じて参ります。

皆様にとりまして、幸多く伸びやかな繁栄の年となりますことを心より祈念いたします。



参議院議員

石田 昌宏

新潟県看護連盟の皆様、日頃お力添えを賜りありがとうございます。

現在開会の国会は「好循環実現国会」と位置づけられ、成長戦略の実行計画の具体的議論が進められています。看護関連法案では、「特定行為に係る看護師の研修制度」「看護職免許の届出・登録制度」が国会で議論されています。これこそ我が仕事、精一杯の努力を続けています。さらに新たな社会保障制度の法案化にむけて、年金・医療・介護などの分野を中心に連日活発に議論をしています。

また、先日、視察団としてミャンマーを訪問しました。アウンサンスーチーNLD議長他要人と面会し、急な変貌を遂げている様子を理解しました。看護師助産師会長との面談では、看護職が人口当たり日本の12分の1しかない環境下の中で、教育のチャンスを増やしたいと強く願われており、どのような支援が必要か共に考えました。

皆様からいただく現場の声や貴重な経験を咀嚼し、国政の場で頑張ってまいりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

南野知恵子先生 シーナカリン賞受賞 おめでとうございます



新潟県看護連盟副会長 阿部 時子

日本看護連盟顧問の南野知恵子元参議院議員が、今年度のタイ王国のシーナカリン皇太后賞を受賞され、平成 25 年 10 月 22 日バンコクにおいて授賞式が行われました。同賞は故シーナカリン・マヒドン皇太后の生誕 100 周年を記念してシーナカリン皇太后基金が創設されたことに伴い、皇太后の看護及び社会福祉事業の発展への多大な貢献をたたえて創設されました。アジアの国々で看護の発展に貢献した看護職が毎年 1 名選ばれ賞が授与されます。11 月 5 日には南野顧問の受賞を記念し、日本看護界の有志による祝賀会が開催され、国会議員をはじめ、多くの関係者が先生に敬意を表し盛大な会となりました。私は県連盟から出席しお祝いを申し上げてまいりました。

挨拶



日本看護連盟会長
草間 朋子

昨年は、石田昌宏参議院議員が誕生し、看護職では初めての男性議員として、フレッシュな感覚で、頑張ってお活動しております。阿部俊子衆議院議員、高階恵美子参議院議員も、それぞれ、要職のポジションを得ることができ、看護政策に関することはもとより、幅広い領域の活動を展開し、「看護の代表ここにあり」と存在感がありうれしいことです。

「看護職の役割拡大」「看護職の働く環境の改善・整備」「潜在看護師の復職支援」など、看護界が抱えている様々な問題を解決し、政策的に実現していくことや、看護の代表を国政の場に送り出すことは連盟の重要な役割だと認識しております。看護界が抱えている様々な問題を、看護職が自らの力で自律的に解決していくために会員のみなさまと一丸となって、連盟を、社会を動かすことができる「力強い組織」として発展・進化することを目指して、全力投球してまいります。

ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



新潟県看護協会会長
佐藤 たづ子

新潟県看護連盟会員の皆様、明けましておめでとうございます。

2014 年が私たち看護職にとって良い年となりますようにと願っております。

今、国会が開催中です。阿部議員、高階議員、石田議員の活躍が伝わってまいります。昨年初当選されました石田議員の活躍も頼もしいものがあります。

看護師特定行為の研修制度について激論が交わされています。

このゆきつばき第 46 号が皆様のお手元に届くころにはよい決着がついていることを強く望むものです。

この看護師特定行為の研修制度の国における検討過程を見るにつけ、私たち看護職の制度等の決定には政治の力が大きく影響することを痛感いたします。

看護職が自信を持って能力を発揮し、素晴らしい看護を展開し、誇りを持って働き続けられる環境を作り上げることができるよう私たちの代表を政治の場に送り続けなければなりません。

本年は、選挙の無い年となると思われます。このような時こそ組織をより強くするチャンス的一年と考え連盟の皆さまと協力していきたいと思っています。

引き続き皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

支部長就任あいさつ



OB会支部長
田中 こゆき

平成 25 年 8 月 1 日、大先輩の香西支部長より職務を引き継ぎ、緊張をしております。香西支部長が築かれたOB会の組織を守り、少し前進をし、次の支部長に引き継ぐことがわたくしに課せられた使命と思っております。

OB会の力の発揮するところは、選挙です。選挙で自分たちの代表を国政に送ることの大切さを、働きながら歴史の中で理解をしてきました。一緒に働いた多くの仲間を集めて、親睦を図りながら、来る選挙に備えていきたいと思っております。具体的には、おひとりの会員の方から、OB会員 1 名、賛助会員を 1 名以上を勧誘していただき、仲間の輪を広げてゆけたらと思ひます。ご協力をお願いして新任の挨拶といたします。

— 石田まさひろ参議院議員を講師に迎え 研修会、国政報告会を実施 —

■日時：平成26年1月11日(土) ■会場：学生総合プラザSTEP

新年早々石田議員を迎えて、熱気あふれる研修会、国政報告会が行われました。石田さんの国会議員としての活動を知り、代表を国政に送ることがいかに重要であるか、具体的に学びました。

連盟の会員でない看護師も大勢参加し、連盟の理解を深める機会になりました。

若手会員の夜ナビが別会場で急きょ実施され、未来を熱く語り合いました。

ナースマン研修

- 参加者：75名
- テーマ：「期待される男性看護師」－看護の役割を広めよう、伝えよう－
現状報告とGw「男性看護師が生き生きと働くために」
報告者 南浜病院 布川征一郎 県立新発田病院 小野 義夫
- 講演テーマ：「男性看護師として意欲的に働き続けるために」

東新潟病院 阿部 雅臣

前半の「現状報告と情報交換」では、情報を交換するなかで、『現在のナースマンは「職場の癒し」となり、「メカに強い」「体力が有る」と重宝され、「男なんだからこれやって」と使われる。「男だって疲れるんですよ」と思って周りを見れば思いを共有する男子はいない…』といった状況が見え隠れしたようでした。しかし、「男性看護師として意欲的に働き続けるために」と題する講演で講師の石田昌宏氏は『少子化により成り手不足が予想される看護師への男性増員は不可欠、ナースマンはいかに魅力的な職業なのかを世にアピールする必要がある。だがナースマンも年をとれば体力はなくなる、そうしたことも考えていかなければならない。』と話されました。このことから自分は『今

後のナースマンのために「男だから」でない「ナースマンだから」を見つけその魅力をアピールすることが、現在のナースマンの役割なのだ。』と思い至った研修でした。



新潟県看護協会・看護連盟合同研修会

■参加者：159名 ■講演テーマ：社会保障制度改革と看護職に求められるもの

新潟大学医歯学総合病院 杉田 洋子

診療報酬改定が間近の1月、タイトルからして最初はやや重い気分で参加しました。しかし、始めてみれば、石田議員のエネルギーにあふれた小気味良い話であつと言う間の2時間でした。看

護必要度から2025年問題を見据えた近未来まで幅広い話題提供があり、中でも印象的だったのは、入院看護中心の発想から患者中心の発想へと、医療・看護がシフトしていく話。外来看護ではエキスパート看護師が活躍し、急性期病院は更に多くの看護師が働く環境となり、退職を迎えたベテラ

ンも生涯看護師として活躍する、そんな近未来を生き生きと想像しながら話に引き込まれて行きました。だからでしょうか、教育や労務やいろいろなチャレンジな課題についても話題にありましたが、よしやるぞ！と元気が湧いてきます。最初の重い気分は何だったのか、頭の体操にもなったと感じる研修でした。

県立松代病院 小野塚 カツ工

新春の魚沼は雪降る中、厳寒の寒さでしたが、そんな寒さも吹き飛ばすほど会場いっぱいの盛りぶりでした。

参議院議員の石田まさひろ氏をお迎えし、社会保障制度改革の方向性や私たち看護職に求められるものについて現場に即した具体的なお話を聞きました。今後、改革を通し急性期病院は姿を変え、入院看護中心から患者が求めている「治るまで」の患者中心の発想へ移行していくため、外来体制や人員の配置の見直し等、「治すこと」を目的にするケアが重要であることなど、改革を捉えた行動が必要だと思いました。

看護職の「プロとは？」という質問に、即戦力を求めるだけでなく、人生の様々な経験も含めた人間としての成長を大切にしていけるキャリアプランや組織づくりが必要だと改めて感じました。



また、「看護の定年はない」という言葉に、これから自身も「徘徊ナース」になっている姿も想像しつつ、どこにいても看護師であり、看護の心を忘れないようにしたいと心新たにできた研修でした。



新潟県の草花 オオミスミソウ
(写真提供：賛助会員 西山陽子)

石田まさひろ国政報告会

■参加者：89名

看護問題対策議員連盟の国会議員、県看護対策議員連盟渡辺会長そして、保育推進連盟など関係団体のご参加を頂き、石田さんの活動や活躍の様子を聞き、交流を深めました。



脳神経センター阿賀野病院
落合 美恵子

会は和やかな雰囲気の中で進み、あっという間に時間が過ぎました。会場で待っている間、国会議員や県会議員の方々がお越しになり、「明けましておめでとうございます。いつも、皆様方にはお世話になりありがとうございます。」と口々に挨拶をされてビックリしました。石田さんも初めて国会に行かれた時「ありがとうございました」と、各議員の方々より言われたそうです。選挙の時は、何故いろんな人を応援しなければならないのかと、少々面倒だと思っていましたが、今回この会に参加し、人と人のつながりが国政の場での発言力につながることを改めて感じました。これからも、地道に会員を増やし応援していこうと思います。

—今年度も多くの研修会を開催し、連盟についての理解を深める機会になりました—

施設においては研修後のフォローアップにより、加入率の増に繋げていただけますようお願いいたします。

高齢者の医療を考える研修会

■日時：平成25年9月7日(土) 13:00~16:00

■会場：NICO プラザ

■参加者：102名

■シンポジウム

「高齢者の看とりの現状と課題」

■シンポジスト

訪問看護ステーションにいがた

所長 竹内 則子

介護老人保健施設くびきの

看護師 平原 恵美

厚生連豊栄病院

看護師 田村恵美子



■コーディネーター

新潟青陵大学短期大学部人間総合学科

助教 本間美知子

■講義：「高齢者医療の現状と課題」

講師 県立坂町病院

内科部長 近 幸吉



■講義：「看護の力で日本を元気にする」

—看護政策実現のために—

県看護連盟会長

県立新発田病院 小野 義夫

2025年問題と呼ばれる「高齢化と多死の時代」が近くやってくるといわれます。こうした中、各施設における高齢者の看取りの現状を聴き、在宅で死を迎えることの困難さ、高齢者支援体制の不足の実情を理解することができました。現在、私の病院でも高齢者世帯や独居高齢者の救急受診が多く見られますが、救急車の安易な使用が増加している印象を受けます。本研修からは、こうした実情の背景にも在宅での高齢者支援体制の不足、在宅療養に対する家族の不安が影響していることを認識できました。現在、在宅死を望みながらも人口の約8割が病院で死を迎えているといわれます。本人が望む終末期を、どのような支援体制で応じることができるか、考えていく必要性を感じました。

槇山けやき苑 近藤 喜代

私は特養に勤務し15年ほどとなります。特養は終の棲み家ですので、ご本人ご家族の意向があれば、苑での看取りは以前から行っていました。加齢と共に変化していく身体変化を疾病ととらえるか、自然な老いの現象ととらえるか、又はその両方でとらえるか、それぞれで治療方針が変わってくると思いますが、いずれにせよ、その診断や治療方針を、ご本人やご家族が納得できるかが大事になってくると思います。納得された先に、その方のエンドオブライフがあると思っていますが、現在の状態が把握できる必要最小限の検査や嚥下機能検査やリハビリ等、私たち看護師が知識を得、繋げたり実践したり説明できるようになることも必要と感じました。特養にも専門職がおり多職種共働の関わりをしていますが、在宅は範囲が広い分、また多様な困難ケースがある分、連携を図ることが難しくなっていると思いますが、そこを連携調整できるのがやはり、看護ではないかと思いました。経管栄養や看取りに対する意識の変化を、受診時等に感じます。病院・在宅・施設、どこであれ、その方やご家族にとってより良い最後の時が過ごせるように支援できるよう、広い視野で情報や知識を得、実践できる行動力も身に付けていきたいと思っています。胃瘻造設の様子は、初めて見ました。貴重な時間をありがとうございました。

リーダーセミナー②

- 日 時：平成 25 年 9 月 18 日(水)
13:30~16:00
- 会 場：NICO プラザ
- 参加者：病棟連絡員、施設連絡員、
支部長支部幹事長他 87 名
- 講 義：「看護政策の実現に向けて」
講師：日本看護連盟
常任幹事 竹澤 良子
- ワークショップ
「現場の声を政策にどうつなげるか」

県立柿崎病院 大山 和子

セミナーに参加して施設連絡員の役割について再確認することができました。竹澤常任幹事の話は力強いものでした。看護職の事ばかりでなく、これからますます進む少子高齢化の事も私達看護職の責任は大きいと感じました。ワークショップでは、いろいろな施設の人達と話ができました。施設として自民党でないため苦勞している、看護師不足・離職が多い。やりがいを感じられない、連盟会員が少ないなどネガティブな話が多い中で看護党があってもいいよねという話が出ました。職能団体としてはダントツと思われる看護職ですから看護党ができたと思ったら少しワクワクしてきました。

厚生連真野みずほ病院 杉畠 弘

リーダーセミナーに始めて参加させていただきました。日頃連盟の活動、連絡員の役割など認識が薄く、講義を聴き、改めて連盟組織の一員として看護職が安心して働き続けるために、何が必要かという事を感じ取りました。ワークショップでは各病院で起きている様々な問題に対して、我々



がどう発信していけるか、多くの会員が一致団結して訴え続ける事が重要であると思いました。今回看護の代表として石田昌宏さんが参議院に当選しました。看護のおかれている現状を石田議員の力を借りて、少しでも改善できるように応援していきたいと思います。そして連盟会員を今以上に増やしていけるように、努力して行こうと思います。

厚生連系魚川総合病院 山本 淑子

今回、初めて看護連盟の研修に参加させていただきました。そこで看護連盟の目的や役割を深く理解することができました。これはホームページなどを見ただけでは感じられなかったことです。研修の重要性を再認識しました。

特にグループワークで熱く語る大先輩方のお話には、会費さえ払えばいいという今までの自分を反省させられました。また現場で起こっている問題で何が政治で解決すべき問題か常に考えていこうと決心しました。今回「現場の声を政策にどうつなげるか」というワークショップでしたが、私のような初心者には役割認識の良い機会となりました。本当にありがとうございました。

災害看護フィジカルアセスメント研修会



- 日 時：平成25年10月5日(土) 13:00~16:00
- 会 場：NICO プラザ
- 講 義：「看護の未来を創造する」
県看護連盟会長
- 講 義：「災害時に活かせるフィジカルアセスメント」
- 講 師：長岡赤十字病院
救急看護認定看護師 黒崎 祐也
- 参加者：90 名

新潟臨港病院 五十嵐 あさみ

災害時、時間の経過と共に様々なニーズが顕在化していく。特に医療面においては救命から健康維持に向けた保健活動などそのニーズは多岐にわたり、特に災害発生期から亜急性期にかけては、看護の対象や場面、配慮を要する事など、看護師に求められる役割・行動も変化する。フィジカルアセスメントの意義とは生活するものを支援する。その根底には生命維持の確保であり、変化に早く気付き介入していくことが重要であるとのこと。災害時に求められる看護とは特別なものではなく、普段やっている事であるとのことであった。私達も普段の業務の中で自分の足りないものは何か？どんな看護師になりたいのかなど、目的意識を持って取り組んでいくことが大切であると思いました。話を聴き、災害時の様子がつい最近のことのように頭に浮かびました。

県立加茂病院 草野 厚子

東日本大震災で、震災当日から3日間DMAT・救護班として福島県と宮城県へ派遣されたという講師の講演を聴きました。

私が講義の中で改めて学んだことを2点紹介いたします。ひとつは、呼吸・循環・意識の評価を

行なうSTART式トリアージについてです。今年から循環の評価では毛細血管再充血時間（CRT）はなくなったということですが、寒い季節で災害発生した場合、CRTに時間をかけるより橈骨動脈の触知確認を行なう方がすばやく評価できると聞き、すぐに納得することができました。次は、1人2～3分以内に診て・触って・評価するという生理学的解剖学的評価（PAT）です。実際の訓練の映像を見せていただき、フィジカルアセスメントを具体的に学ぶことができました。

また、被災直後の現地状況、病院等の救護活動の実際など、たくさんの写真をみせていただきました。写真の撮影許可を申し入れた際、病院の看護部長から「写真をとって、新潟県の方々に見てもらってください。」という言葉をいただいたとのこと。救護班の活動は臨場感にあふれており、被災者の方々の怪我や憔悴しきった様子から、支援者の多大な苦勞があったことが伺われました。救護班の方々の休息の取り方や食事の実際についても解説がありました。いつ余震がくるかわからない危険がある環境下で、救護班の方々の健康管理も大切であることを実感しました。

穏やかな日常生活の中で、災害が起きないことを祈るばかりですが、日頃から訓練を積み重ねていくことが大切です。講演内容を院内研修で活かしていきたいと思えます。

国会見学

- 日 時：平成25年10月17日（木）
- 参加者：38名

吉田病院長町訪問看護ステーション
大野 真理子

国会議事堂はもちろん、テレビでしか見たことのない参議院議場を見学でき、これからの国会テレビ中継が楽しみになりました。参議院議員会館では新潟県の衆参両院8人の議員に迎えられ、また石田議員やたかがい議員の執務室も見学できました。

議員の先生方はそれぞれに所属の委員会もありますが、看護師の処遇改善に向けても様々な働きかけを行っていることがわかりました。私が、たかがい議員に「訪問看護してます！」と言うと「駐禁問題話し合っているのよ」と応えてくださいました。駐禁問題は地方の訪問看護にとっては重要です。また石田議員は看護師給与のモデルチェンジが必要だと話されていました。私たちの声が政治に届いていると実感すると同時に連盟活動の成果も感じることができました。もっともっとたくさんの声を届けられるよう仲間を増やしていきたいと思えます。忙しいスケジュールではありましたが政治を身近に感じることで充実した時間でした。機会があればまた参加したいと思えます。



高階議員執務室で



地元選出議員と意見交換

北日本脳神経外科病院 長澤 絵里子

初めて見学した国会議事堂は、テレビで見るよりも、はるかに広く中央広間は教会のように美しく、中央階段にはレッドカーペットが敷かれ豪華な印象でした。参議院議場はスタンドグラスの天井や柱一つ一つにも重厚感があり、国の重要事項が決定される場であり身が引き締まる思いでした。

その後は、たかがい恵美子議員、石田まさひろ議員の執務室を見学させて頂きました。各県の写真や応援の寄せ書きが多数飾られていました。新潟県選出議員より（看護師の待遇改善に向けた取り組みなど）貴重な話を聞かせて頂きました。今後

は新潟県看護連盟への入会者を 1 人でも多く増やし、待遇改善の実現へ向けて議員の方々を応援していく必要があるということを痛感しました。普段は体験できない貴重な研修会となりました。また機会があったら参加させて頂きたいと思います。

OB会支部研修会

- 日 時：平成 25 年 10 月 29 日(火) 10:30～15:00
- 会 場：万代市民会館
- 参加者：26 名
- 講演「政治は夢をかなえる手段～後輩に伝えたいこと～」
連盟会長 二階堂 一枝
- 参議院議員選挙を終えて
- 交流会



OB 会支部役員 友野 光子

OB 会支部も発足 4 年目、田中こゆき新支部長の元で開催されました。

講義を通して石田参議院議員の誕生、あべ俊子、高階恵美子両議員の活躍の様子や、連盟の実態、選挙結果などを知り、役員のご苦労を思いました。看護連盟の研修の特徴や機関誌の意義、代表を送り出してこれまで看護職が得てきた恩恵をいかに会員に伝えていくかなど、改めて考える機会となりました。

午後は前、新会長お 2 人によるお抹茶のお点前を頂戴し参加者全員で交流を図りました。少々時間不足で続きは次回にと、和気あいあいの楽しい至福のひとつでした。

連盟というと選挙、国政の場に代表を送る、いかに数の勝負をするかなどで評価します。選挙は日数限定の異常な事態で、日々の生活にあの熱気は継続不可能だと思います。私たちは看護師免許を持っている以上、看護協会組織の使命が 1 人 1 人に課せられていると思います。個々の努力で満足や喜び、笑顔が生まれ、人に影響を与えます。免許があるから絆が生まれ、手をつなぎ足元が固められ評価されます。免許があるから時代に合わせた企画や研修、研究活動に参加できるのです。選挙も日々の生活と根底は同じで、その一環であると考えます。投票は国民の権利であり責務です。時代の変化に合わせ年齢相応に、今自分のもっているものを大切にしていきたいと、笑顔で帰途につきました。

看護管理者・看護教育者セミナー

- 日 時：平成 25 年 11 月 9 日(土) 13:00～16:00
- 会 場：新潟テルサ
- 参加者：99 名
- 講義「看護の力で日本を元気に－看護政策実現のために－」
県看護連盟会長
- 現状報告：南部郷総合病院 看護部長 吉澤 浩子
国立病院機構西新潟中央病院 看護部長 野本伊江子
- 講演「ワークライフバランス新時代」
～多様な働き方を受け入れる職場づくりをめざして～
- 講師：前・日本看護連盟副会長 大島 敏子



総合リハビリテーションセンターみどり病院 斉藤 由美子

前回行われた看護連盟の研修で、大島敏子先生のテンポ良い講義がとてもわかりやすかったことと、当院が今年度より看護協会のワークライフバランス推進ワークショップに参加しているので参加させて頂きました。現状報告では、それぞれ病院でのアクションプラ

ン・見直し実施状況・次年度への取り組み課題などとても参考になりました。大島先生の講義では「現在看護職は・・死ぬまで働けと言われている」とユーモアあり、笑いありの話で始まり、先生の息子さんの言葉で「俺の熱が出たとき俺は一人で寝ていた。おふくろは患者さんを大事にしていた」と言われて、本当にいい母親ではなかった。これからはこういう子育てをしてほしくない。WLB大賛成。という言葉が胸を打ちました。これから多様な働き方を受け入れ他職種と協力し、働き続けられる職場づくりに努めていきたいと思います。

国立病院機構 さいがた医療センター
熊木 綾子

ワークライフバランスに取り組んでいる施設か

らの報告を聴き、30歳代の職員が自施設で働き続けたいという気持ちが一番低いという現状が分かった。離職を防ぐための取り組みとして、辞めたいと考えている人のグループを作り「自分はこうなりたい、その実現のために何をしていきたいか」を語らせ、ポジティブシンキングに変化させていくことで離職者の減少につながっているとの話もあった。自部署では自分の看護観を語ることはあっても、スタッフから語ってもらう機会が少ないことに気付いた。離職防止にかかわらず、看護観や将来像を語り承認されることは、スタッフのやりがい感につながると考える。特別な時間を設けなくても、普段の何気ない会話からそれらを導き出して行けるように関わっていくことの重要性を再認識した研修だった。

平成25年度ポリナビワークショップin新潟

実行委員が若手会員のニーズを把握したプログラムを作りました。元気になる楽しいワークショップ、選挙について学ぶ貴重な機会でした。

実行委員

- 中村 政浩(長岡療育園) 大久保 勉(白根健生病院)
- 矢櫃 和紀(猫山宮尾病院) 鈴木智恵美(厚生連豊栄病院)
- 米山 保子(済生会三条病院) 南波 久敏(三島病院)
- 北畠 武(桑名病院) 高澤 真美(厚生連豊栄病院)
- 小林 裕介(新潟南病院)

- 日 時：平成25年12月14日
- 会 場：新潟テルサ
- 参加者：56名
- テーマ：若手看護師の挑戦
－看護の未来をつくるために－

- 1 現状報告とグループワーク
「若手看護師の挑戦」-私のチャレンジャー
発表者 県立六日町病院 佐久間健太
新潟臨港病院 鈴木 隆子
- 2 講義「投票しても何も変わらないという意見は事実か？」
講師：衆議院議員 石崎 徹
- 3 講義「政治は夢をかなえる手段」
－明るい未来を自分たちでつかみとろう－
県看護連盟会長



県立六日町病院 青木 友哉

今回私は初めてポリナビワークショップに参加した。研修テーマは「若手看護師の挑戦」ということで、卒3である先輩看護師が卒1、2の時の自分の様子や現在頑張っていることを発表してくれた。私は先輩の発表の中で「自分からアクションを起こさなければ何も始まらない。」という言葉がとても印象深く、今でも頭の中に残っている。この後、自分と同じくらいの若手看護師達とグループになり、自分達の今頑張っていることを発表しあった。周りの看護師が今どのような状況でどのようなことに取り組んでいるのか知るとは、私にとってとても刺激となり、自分ももっと今まで以上に頑張っていこうという意欲に繋がっ



た。今回の研修を通して、自分からアクションを起こし、看護技術の向上に意欲的になっていこうと思った。

新潟脳外科病院 宇佐美 由貴

研修に参加し、新人から教育・指導者の幅広い役割の中で各個人の悩みや現在取り組んでいることを共有することができたと思います。グループワークによって新人はベテラン勢の意見を、また、ベテラン勢は新人の悩みを共有し合い、意見交換したことを今後の仕事の中でも重要視して取り組んでいけるようにしたいという心構えをもつこと

ができた研修なのではないかと思います。各病院や科によっても抱えている悩みがそれぞれ異なっていますが、看護師同士だからこそ分かり合いアドバイスし、話し合いができたことが良い経験となり学びになりました。このような研修会は人の命に携わっている私たちだからこそ、必要不可欠であり、私は研修に参加するたびに仕事への危機感の不十分さや、学習が足りていない自分に気づくことができます。このような研修会がもう少し回数が増えると病院同士の連携も広がり、市や県全体としても医療にとってはプラスになるのではないかと思います。

平成 26 年度 新潟県看護連盟通常総会のお知らせ

日 時：平成 26 年 6 月 21 日(土)

会 場：新潟東映ホテル

特別講演：講師 友納 理緒(弁護士・看護師・保健師)

アンフィニの「ナースのための法律相談」でおなじみの友納先生においでいただきます。御期待下さい。

現場の声

(平成 25 年 9 月～ 12 月分) 回答者 244 名

延件数

第 1 位	看護要員の不足	119 件
第 2 位	給与や各種手当の支給額の低さ	112 件
第 3 位	過重労働・超過勤務・サービス残業	87 件

【自由意見からの抜粋】

- ◇スタッフの数が減り、それを補うために超過勤務が多くなった。
1 人ひとりの負担が大きい。
- ◇看護師不足により十分な有休がとれず 10 回の夜勤回数が増えている。
- ◇休みを労働者はもらう権利があり、上司は与える義務がある。全く成り立っていない。部下からすれば心身共にストレスが溜まる一方、体も休まらず体調を崩す。
- ◇県や市は民間の病院にも目を向けるべき。月の夜勤が 13 回うち深夜勤務が 10 回もありサービス残業。
体がつらい。労働基準法にのっとっていない。
- ◇人員不足が著しいが人が増えただけでは質の向上にはつながらない。皆が質の向上を意識していくことが必要。
- ◇定年延長でも働き続けられる勤務内容になって欲しい。
- ◇多様な働き方の選択といっても、公平性を保つのに困難。独身者への配慮も必要。高齢者も働き方の形態を選択できるようになると良い。
- ◇国は在宅ケア充実を目指しているが、訪問看護の事業所も少なく、対応しきれない現状。
人材確保も困難な地域では政策のすすめ方を考慮してほしい。
- ◇療養病棟の看護師の数を増やして欲しい。
- ◇看護師として 13 年目。ベットサイドのケアが出来ず、パソコンと向きあっている。
給料も低く達成感や満足感が得られない。
- ◇施設では医療依存度の高い利用者が増えている。今の施設配置基準では看護師が不足だ。
基準の見直しをお願いしたい。
- ◇若手の活動が大事な事は理解できるが、上司が変わらなければ活動できず、何をすればいいの分からない、毎日の業務でいっぱいまでそこまで考えられない。
- ◇残業代がとりにくい雰囲気ですサービス残業ばかり。
- ◇新潟県では医師・看護師不足は大きく扱われているが医師の問題が大半だ。看護師がもっと自らアピールすることが重要だ。それには組織力を有効に使う事であり連盟には頑張ってもらいたい。
- ◇連盟会員を増やすなら現場の問題点を 1 つでも解決する事が大切だ。



平成25年
秋の叙勲

「瑞宝単光章」祝 星野 睦子様

受章おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。



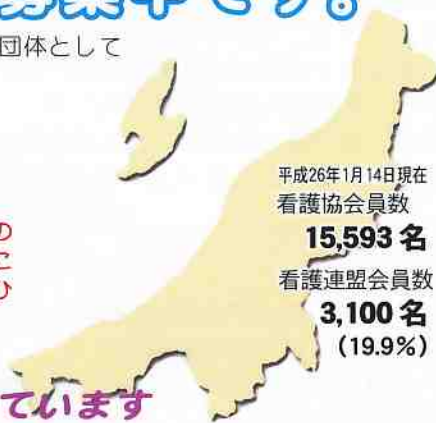
平成26年度 連盟会員募集中です。

看護連盟は看護協会の目的を達成するための政治団体として
今日まで組織代表を国政に送り、法律の制定や改正・
労働条件・看護教育の改善に大きく貢献しています。
まだまだ山積する現場の問題
あなたの入会があなたの問題を解決します！！
看護の力を結集し、現場の声を国会にとどけよう。

各種研修会には非会員も多く参加しています。毎回連盟入会の
意義や実態を話し、参加者にとっては理解を深める貴重な機会に
なっています。各施設においては、研修修了後の早い時期にぜひ
入会への誘い、手続きをしてくださるようお願いいたします。

年会費	日本看護連盟	5,000円
	新潟県看護連盟	3,000円
	合計	8,000円

随時受け付けています



Bedding Products

きれいな呼吸をする

Dry and Clean

透湿
(汗・水蒸気)
汗はぐんぐん放出！

防塵
(ハウスダスト)
ハウスダストや細菌を通さない！

東洋羽毛北信越販売株式会社 新潟営業所 ☎0120-300060

お気軽にお問い合わせください。

家庭用 ラジウム温浴器 **GTR**

ラジウム温浴効果で知られる秋田の「玉川温泉」などでは、年間を通し湯治や健康維持を目的とした人々が数多く訪れています。

ホルミシス立体枕

マイナスイオンを1300ヶ所以上出し続ける

Grand Feather グランドフェザー新潟株式会社

〒940-0044 新潟県長岡市住吉1丁目5番17号 【お問合せ先】ご希望の方にパンフレット差し上げます。
TEL 0258-33-3208 FAX 0258-33-3210 URL <http://www.grandfeather-nigata.com/>

ホームページを ご覧下さい

皆様ぜひ 今すぐアクセスを

新潟県看護連盟 けんさく **検索**

必見情報がいっぱい
ご意見も下さい。

編集後記

今年度は、私たちの活動の成果が実を結び、石田まさひろ氏を含め3名の看護界からの国政参加となりました。看護職の持てる能力を十分活用できる仕組みや、看護の力をより充実させていくための多くの声を伝えるためにも、今後はさらなる会員の増加が必要となってきます。厳しい寒さが続きます。体調管理に気を付けて頑張りましょう。

(武田 文子記)

【広報委員】 広報委員長・池田 則子(信楽園病院) 中村 政浩(長岡療育園) 武田 文子(厚生連柏崎総合医療センター) 田村 由子(個人会員)

目次	● 目標に向けて力強くスタートしました …… 1	● 石田まさひろ参議院議員を講師に迎え、研修会、国政報告会を実施 …… 4~5	● 平成26年度新潟県看護連盟通常総会のお知らせ …… 11
	● 国会議員たより …… 2	● 各研修会 …… 6~10	● 現場の声 …… 11
	● 南野知恵子先生 シーナカリン賞受賞 …… 3	● 平成25年度ボリナビワークショップ …… 10	● 秋の叙勲 …… 12
	● ご挨拶 …… 3		● 看護連盟入会のお祝い …… 12